

河南町 全国学力・学習状況調査 結果概要

調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年

調査の内容

教科に関する調査(国語・算数・数学)

- ※ 平成24年度から理科を追加。理科は3年に1度程度の実施。
- ※ 平成31年度(令和元年度)から英語を追加。英語は3年に1度程度の実施。
- ※ 平成31年度(令和元年度)から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。

調査結果の取り扱いについて

- (1) この調査は、序列化や競争を目的とするものではありません。
- (2) この調査で測定できる学力は、特定の一部であり、学校の教育活動の一側面です。

調査結果の概況について

小学校

令和6年度は、国語・算数の2教科の調査となりました。国語は府の平均と同じ、算数は全国・府の平均を下回る結果となりました。

国語では、「知識及び技能」においては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」で全国・府を上回る正答率となりました。問題形式別に見ると、昨年度課題となっていた「記述式」で一定の成果が見られたものの、「事実と感想、意見を区別して書くこと」には課題が残りました。

算数では、すべての領域で全国・府の平均を下回りました。観点別・問題形式別で見ても課題が残る結果となりました。ただし、「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる問題」では、全国・府を上回りました。無回答率は、全国・府と同等ですが、正答率の低い問題ほど無回答率が低く、諦めずに問題に取り組む姿勢がうかがえます。

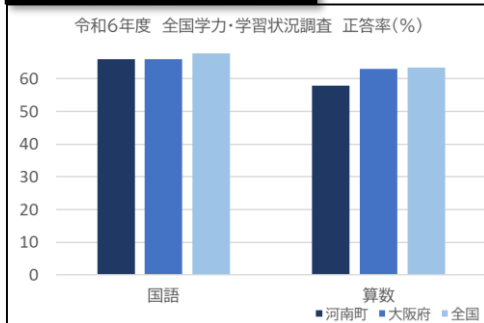
中学校

町内1校のため正答率の公表はしません。

国語・数学ともに全国・府の平均を下回る結果となりました。

国語では、「知識及び技能」においては、「情報の扱い方に関する事項」と「我が国の言語文化に関する事項」で全国・府を上回る正答率となりました。「思考力、判断力、表現力等」では、「話すこと」に課題が見られました。問題形式別に見ると、「記述式」で課題が見られます。問題別に見ると、15問中6問で全国・府の正答率を上回っており、一定の学力の定着はうかがえます。また、全体の無回答率は全国・府を下回っており、諦めずに問題に取り組む姿勢がうかがえます。

町立小学校の正答率(%)



児童生徒質問紙について

全国・府と比べて肯定的回答の多かった質問について記載します。

小学校

「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」

「人が困っているときは、進んで助けていますか」

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」

「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」

「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」

「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」

「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」

……他

中学校

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」

「友達関係に満足していますか」

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」

「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」

「国語の授業の内容はよく分かりますか」

「国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解していますか」

「数学の授業の内容はよく分かりますか」

……他

課題解決のために

- (1) 基礎・基本の定着が確実に行われるよう、個別最適化された学びの充実を図ります。
- (2) 話し合い活動等を多く取り入れ、児童・生徒が互いの意見や考えを高め合う協働的な学びの充実を図ります。
 - ➡ 1人1台端末の更なる活用(AIドリル、共同編集作業など)
 - ➡ 「指導の個別化」と「学習の個性化」
 - ➡ 育成すべき資質・能力の3つの柱を意識した授業改善
- (3) 二小一中の公開授業を充実させ、各校の授業改善に取組みます。
 - ➡ 町立小中学校の研究授業をすべて公開授業とする。
 - ➡ 中学校におけるSE公開授業を小学校教員の悉皆研修と位置づけ、小中連携の意識の向上